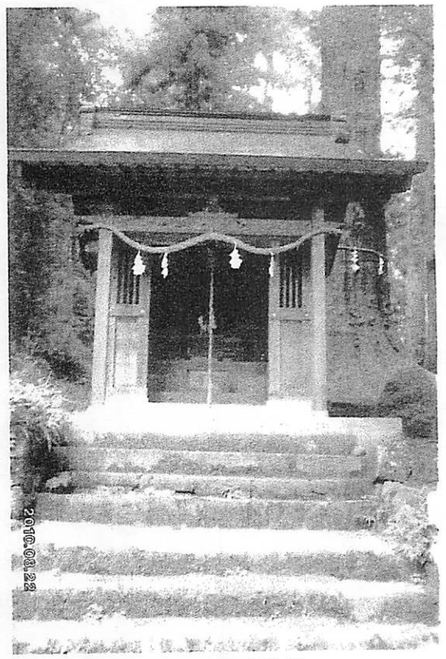
# 浅間神社だより

第２７－４号

## 『諏訪祭』

９月１１日には諏訪（すわ）神社の例祭が執り行われます。社は、境内本殿の南東に位置し、大国主命（おおくにぬしのみこと）を父神とする建御名方神（たけみなかたのかみ）が祭神として祀られています。諏訪神社は子授けの神、安産の神として信仰され、多くの参詣を受けています。



図―１　諏訪神社

子宝または安産の祈願には、底の抜けた柄杓（ひしゃく）や簀子（すのこ）を奉納することが古くからの慣わしになっています。現在では、略式に紙で作った柄杓も奉納されます。

諏訪祭りといえば奉納相撲。夕暮れから子供相撲が始まり、夜には大人の相撲が奉納されます。地元住民の力士による名勝負、応援の声も賑やかに、奉納相撲が行われます。

中入りには「力結び」としておにぎりが配られます。このおむすびの中には小石が入っているものと入っていないものがあり、小石が入ったおむすびを食べると男の子宝に恵まれると言われています。

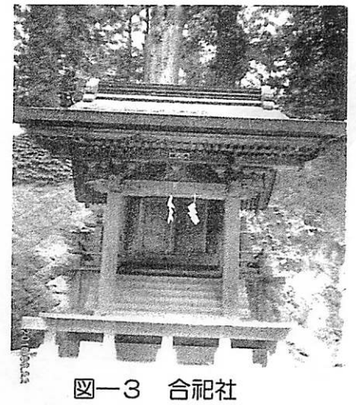
子供の健やかなる成長と安産を願って腹帯（はらおび）を巻く風習があります。安産祈願のお参りと腹帯の着帯には戌の日が選ばれます。河口浅間神社でも、安産を祈祷した腹帯を授かることができますので、社務所にお問い合わせ下さい。

## 『隆武隊の碑』

９月１１日には、隆武隊の祭祀が行われます。河口浅間神社受札所奥の高台に甲斐の勤王、隆武隊の顕彰碑が建立されています。河口地区は富士山信仰における御師（おし）の里として形成され、江戸時代中期には 140 軒にも及ぶ御師住宅が存在し、ほとんどの村人が何らかのかたちで御師の業務に携わっていました。時は下り、徳川幕府が大政奉還し、新しい明治の時代に移り変わる混乱の時、河口御師の子弟によって隆武隊が結成されました。勤皇の志のもとに集結した、12 歳から 20 歳前後の 46 名によって構成され、甲斐の要衝（ようしょう）である甲府城の警護（けいご）にあたりました。この功績を讃え、大正６年、河口浅間神社の境内に隆武隊の碑が建立されました。碑には東征軍有栖川宮熾仁親王の侍従、柳原前光副総督の子孫、伯爵柳原義光によって隊史が綴られ、碑の裏には隆武隊 46 名の氏名が刻まれています。

図―２　隆武隊の碑

## 『地域の神々を祀る合祀社』


図―３　合祀社

かつて、河口地域内の各所にはさまざまな神を祀る社が点在していました。明治９年 10 月に、小規模な社をまとめて祀る「合祀令」が発令され、河口地区においても点在した小さな社を合わせて祀る「合祀社」が造られました。合祀社は河口浅間神社拝殿の手前、ヒイラ石の北に位置し、幾柱の神々がひとつの社に祀られておりますので、一度に沢山の神々にお参りすることができます。

９月11日には、諏訪祭とともに、合祀社においても神事を執り行います。

## 『本殿外装の改修について』

貞観６年（864）に噴火した富士山を鎮めるよう勅命が下り、河口浅間神社が貞観７年（865）に創建され、今年で１１５０年となります。

この節目の年に神社では記念事業を検討した結果、今後も美しい神社を維持管理することを目的とし、本殿の外装補修工事を計画いたしました。

神社の修理・改修に関する記録によれば、前回の本殿外装改修工事は昭和３５年に施工されており、５５年の歳月が経過しています。

改修工事にあたっては、河口浅間神社が富士山世界遺産の構成資産であること、また、社殿が文化財に指定されていることから、国、山梨県および富士河口湖町の担当機関に対して事前に今回の工事の許可申請を行いました。工事施工者は、文化財建造物修理工事に実績のある伝匠舎㈱石川工務所と契約しました。河口浅間神社の夏の神事、太々御神楽祭を済ませた８月から着工し、竣工は１１月２０日を予定しています。平安時代の歴史書、『日本三代実録』には、河口浅間神社の創建について貞観７年（865）１２月９日の条に記述があります。

今年の１２月９日の河口浅間神社創建日には、本殿は、化粧直しを済ませた美しい姿で創建１１５０年の記念の日を迎えます。

## 『本殿と拝殿を繋ぐ屋根の改修』

神様の空間である本殿と、舞を奉納するまたは人が参拝する空間である拝殿は、別な構造で造られています。これを渡り廊下で繋いでいますが、この上部は本来吹きさらしとなっています。雨仕舞や落ち葉の吹込みを防ぐために、鋼材の骨組みにグラスファイバー製波板葺の屋根をかけています。この屋根も老朽化が進んだため、今回の本殿の改修工事に合わせて架け直しを行います。鉄骨工事を中村鉄工（代表中村利氏）、屋根工事を白壁板金工業（代表白壁明氏）に担当して頂きます。

## 『境内に「浅間古道」を整備しました』

境内に富士登山を疑似体験できる「浅間古道」を整備しました。江戸時代に関東近郊において、富士山信仰が流行しました。富士山から遠く離れた江戸の富士山信仰にゆかりが深い神社では、富士山に模して造営された人工の富士塚がつくられました。富士山山開きの７月１日に富士塚に登山する習慣があるそうです。

今年、河口浅間神社では、手水舎から栃の木を経て、山宮神社に至る道を整備しました。この道には、山宮神社を富士山頂と見立て、富士登山道に見られるように、「一合目、二合目・・・・」と表示しました。富士山に登る思いで浅間の森の自然を楽しみながら、山宮神社に参拝して頂ければと存じます。

河口浅間神社